

# ヨード造影剤投与に関する説明書

検査当日にヨード造影剤という検査薬を使用する可能性があります。あらかじめこの説明書をお読みになって、不明な点や、造影剤を使用したくないという場合には、ご遠慮なく申し出てください。

## 【ヨード造影剤とは・・・】

造影剤とは、画像診断において血流の豊富な部分を高濃度（白く表現）にして情報量を増やすための検査薬です。通常は血管内に投与して行います。ヨード造影剤は、腎臓の機能が正常であれば造影剤投与後 6 時間後には約 90%が腎臓から尿として排泄され、24 時間後にはほぼ全量が体外に排泄されます。

## 【ヨード造影剤を使用する目的は・・・】

注入されたヨード造影剤は血液の流れに乗って全身の血管や臓器に分布します。これにより血管の走行、臓器の血流や分布、病変の性質などが分りやすくなり、診断に必要な情報が新たに得られます。

## 【ヨード造影剤の副作用について・・・】

- ① ヨード造影剤を使用することで軽いものを含めて 3%～5%以下（30 人に 1 人程度）の患者様に何らかの副作用が現れます。この造影剤の副作用を完全に回避することは出来ません。副作用が起こるかどうか前もって調べておく方法が無いからです。以前に造影剤を使用して副作用の出なかった方でも、次の検査で副作用が起こる可能性が変わりません。
- ② 副作用の危険因子としてアレルギー体質の方、喘息やその他造影剤に影響されやすい疾患の方は副作用が現れる可能性が約 3～10 倍と高くなります。また腎臓の機能が悪い方はさらに悪化させる恐れがあるため主治医にご相談下さい。
- ③ 副作用の症状は、軽度なものでは、吐き気や嘔吐、かゆみや蕁麻疹、くしゃみや頭痛などがあり、通常は 30 分～1 時間程度で消失します。重篤な副作用としては 0.1%未満（2500 人に 1 人程度）に現れ、症状は血圧低下や喘息発作、呼吸困難などが見られます。非常に稀（50 万人に 1 人程度）ですが、死に至った例もあります。
- ④ 副作用の現れる時期は造影剤投与後 30 分以内に現れるものが多いですが、1 時間以上経過し数日までの間にかゆみ、蕁麻疹、全身倦怠感などが現れることもあり、遅れて副作用が起こることもあります。

## 【検査前のお願い】

造影検査を行うに当たって、検査前 6 時間以内の食事はお控え下さい。また、水分については水、お茶に限り十分に摂取してください。検査前に水分（水、お茶）を取っていただくことで副作用の発生頻度を低減させることが出来ます。ただし、他の飲料水はお控え下さい。

## 【糖尿病の治療薬を服用されている方へのお願い】

治療薬（ビグアナイド系）を投与されている方は血液に異常（乳酸アシドーシス）をきたす可能性があり、検査前後 48 時間は投与されないようお願いしております。治療薬につきましては主治医にお尋ね下さい。

## 【緊急時の対応】

造影検査中は副作用や合併症が起きないように看護師、診療放射線技師が常に観察しており、何か異常があれば造影検査を中止し、医師の指示で点滴や必要な薬剤を使用し最善の対処を致します。また、検査終了後、数時間～数日後に先に述べた症状や何らかの異常が現れた時には、下記までご連絡下さい。

## 【あいち肝胆膵ホスピタル】

平日時間内： 放射線部受付 052-310-3336  
                  病院受付 052-809-3777  
時間外・休日： 病棟（直通） 052-310-3338